重点戦略に関する各部会の主な意見

１　全　般

・重点ポイントは、全体的にソフト的な取組が多いが、ハード対策も盛り込むべきではないか。戦略２～４について、公共交通や自転車利用を促進するためには、道路などのインフラ整備が必要であり、都市基盤整備も進めていくことが分かるような文言があると良い。

・５つの戦略は重複し連携する部分が多いので、そうした有機的なつながりを見せられると良い。図を用いて関係性を示すことも考えられる。

・市を一周するサイクリングロードと、見沼田圃など各所にサイクリングステーションをつくり、自転車で市内を回ってもらうことで、様々な産業につなげるような楽しみのある戦略をつくってもらいたい。

・分野別計画の括り方を変えただけのように感じて、「のびのびシティ戦略」とは何なのか、市が目指しているものが見えない。さいたま市の幸せな暮らしのイメージを明確に打ち出せれば、戦略全体の軸となるのではないか。

・核家族化が進み、コミュニティが希薄になっているにも関わらず、コミュニティの明記がない。

・この戦略はまるで新しいまちをつくるようだが、まちの成り立ちや現状を踏まえて展望を描いた方が良い。また、誰とまちをつくっていくのかが見えにくい。

・さいたま市は、産業都市ではなく生活文化都市であり、明確な特徴はないが首都圏の交流拠点としてのオープン性があり全体のレベルが高いので、健康生活文化都市のような未来型の先導都市となり得る。

・基本はストック型開発とし、見沼田圃をはじめとした緑など、既存の豊かなストックを生かすことが大切だ。

・暮らしやすさや拠点性など、北関東の中でナンバーワンという市のポジションを自覚すべきである。

・特段の意図があれば別だが、全体的にカタカナ用語が多いように思うので、高齢者にも容易に理解できる言葉で表現すべきだ。

・キャッチコピーについて、例えば、防災に取り組むこと自体を掲げるのか、あるいは防災に取り組んだ結果どのようなまちになるかを掲げるのか、レベル感の統一があると見やすくなる。

・重点戦略に取り組むとどういう良いことがあるかがわかるように、成果目標的なものの設定にチャレンジしてはいかがか。

・重点戦略とは、市が安定的に成長するかを示すものなので、資源の投入の方向等をしっかり示していくことが各戦略に必要なのではないか。

・重点戦略を立てるうえでは、市民が納得するように、裏付けとなるものを示していく必要がある。

・戦略とすると、一連の戦略をすべて書く必要があり、非常にハードルが高いので、タイトルを戦略の目標などとして、現在の資料にあるように、戦略の目的や目標を掲げるのが現実的ではないか。
・本市の特徴については、データを明らかにして、その原因について考え、現実を踏まえた上で戦略を立てることが大切である。

２　５つの戦略

（１）　戦 略 １

●タイトル及びサブタイトル

・タイトルを「次代を担う人財を育む都市さいたま～豊かな教育ノウハウを活かして子育てに魅力を感じるまち」などとし、戦略１は子どもから青少年まで、幅広い層を対象とするものと位置づけたらどうか。
・案２の「次代を担う人財を育む都市」の“財”の字はこれでいいのか、検討をしてほしい。
・「子育ち」という文言に違和感があるので、タイトルは案２を中心に考えたらどうか。
・幅広い層を対象とすべきという意見が出ているが、やはり、子育て支援に特化すべきだと思う。「次代を担う人財育成」では対象とする範囲が広くなり、ポイントがぼやけてしまう。
・サブタイトルについて、案１は「教育による人材育成」、案２は「子育てしやすい環境づくり」と目標とするポイントが異なる。どちらに絞らねばならないとすれば、案２の方が重点になると思う。
・案１には、みんなで子育てをしていくことと、子ども自身が育つという両方の意味合いを込めて、サブタイトルを「～みんなで育てる育ちあうまち～」としてはどうか。

●本市の特徴及び重点ポイント

・戦略１が子ども、戦略２が高齢者を対象とすると、例えば青少年など中間層に対する施策が抜けてしまう。青少年、若者、３０歳代から４０歳代の人たちが楽しいと感じられる市であるとよい。
・教員、保育士たちが「さいたま市で働きたい」と感じるような、現場を支えているスタッフが心に余裕を持てるような施策があるとよい。
・家庭教育の支援という視点が欠けているように思う。家庭教育の支援は、「父親の子育てへの参加促進」とは異なる。
・「父親の子育てへの参加促進」の記述については、違和感がある。
・家庭は個人のプライバシーの領域であり、行政による介入はやりすぎだと思う。
・「保育所は増加しているものの」とあるが、「保育所・放課後児童クラブは増加しているものの」としたらどうか。
・就労せず子育てをしている方の視点も入れてほしい。また、困った時に地域の人に支えてもらえるという視点は大事ではないか。

（２） 戦 略 ２

●タイトル及びサブタイトル

・「ゴールドシアターシティ」というタイトルに違和感がある。特別なことができなくとも、年齢相応に自分の知識と経験が生かせればよいと思う。

・案１のサブタイトル「地域に戻ってくる」は不要であり、単に「地域で暮らす高齢者」でよいのでないか。

・タイトルレベルに、「知識と経験を還元する」といった表現があってもよい。

●重点ポイント

・就業支援だけでなく、起業やソーシャルビジネスに自ら取り組む高齢者を応援する内容があっても良い。

・「健康づくり」と同様に、「高齢者の活躍によるまちの活性化」の中にもボランティアに関連する記述があっても良い。

・「各種健康診査・検診の受診促進」は中高年に対し必要な施策であるので、再検討が必要である。

・「自転車への利用転換」とあるが、自転車による交通事故が問題となっている中、進めていいものか。

・今後さいたま市は高齢化が急速に進むが、高齢者が単に健康に暮らすだけではなく、アクティブに暮らすことによって、地域における共生・共助の力を育んでいくことができることを強調できると良い。

・団塊世代の起業の受け皿について、記載があると良い。

・高齢者の地域社会に何か還元したいという気持ちと、生きがい対策の連携を盛り込んでほしい。

（３） 戦 略 ３

●タイトル及びサブタイトル

・イノベーションシティを構成する企業などの個別の活動が見えるように、産業振興の面を強調できると良い。

●重点ポイント

・グローバルな視点の中で、市がどうあるべきか打ち出していくべきではないか。

・単に企業を誘致しますではなく、もう一歩踏み込んで、地域の産業資源を発掘し、身近なところで高齢者や女性が働ける環境をつくる、といった視点が必要だと思う。

・青少年の就労について、雇用促進やキャリア教育の充実などにしっかり位置づけて、青少年たちも住みやすいさいたま市であると戦略の中に盛り込んでほしい。

（４） 戦 略 ４

●タイトル及びサブタイトル

・タイトルについて、案１は多くの自治体で用いられている表現なので、案２の方がさいたま市らしさを出せて良い。

・キャッチコピーの「エコシティ」は環境省が用いている表現であると思う。同じ内容と捉えられてよいのか確認が必要だ。

●重点ポイント

・次世代自動車だけでなく、電動自転車についても普及促進し、市としてブランド力を高めていくような取組をしてはどうか。

・重点ポイントにある「市民や企業との連携による自然環境の保全・活用、魅力の創出」は、都市農業に民間企業を活用し、企業のビジネスチャンスと環境保全を組み合わせるものと解釈できる大きな転換だ。

（５） 戦 略 ５

●タイトル及びサブタイトル

・より客観的に「安全コミュニティシティ　さいたま」としたらどうか。

・防災に限定せずに、「安全安心コミュニティシティ　さいたま」とすると、広く意味が取れるのではないか。

・災害だけでなく防犯等の話もあるので、サブタイトルは「～地域のみんなで支え合うまち～」としてはいかがか。

●重点ポイント

・海がないことを市の強みとして生かし、東京のバックアップ都市となることも考えられる。

・ヒートアイランド現象や地球温暖化について、防災的な予防として、その視点を入れてもらいたい。

・一人暮らし高齢者の見守りの視点を入れると良い。

・全体を通して、外国人の優しさ、多文化共生やグローバル化などについて読み取れないので、戦略５の重点ポイントにある「地域における多様な交流の促進」に含めてもらいたい。